

「SUTタスクフォースにおける検討課題 及び審議の方向性」に対する意見

平成29年7月14日

総務省統計局

審議の進め方及び方向性についての意見

○産業連関表のSUT体系への移行に必要な基礎統計の整備・改善について、経済センサスー活動調査等の基礎統計を所管する総務省統計局として、できる限りの取組を実施

○タスクフォース会合（第1回）で示された重点審議項目「基準年SUT・産業連関表の基本構成の決定」は、今後の基礎統計整備の前提となる重要な課題であり、論点メモで示された以下の方針に沿って審議を進めることが適当

・方針「①」に基づき、SUT・産業連関表の大まかな基本構成（商品や産業の概念・表章部門の考え方・部門数）を先に決定し、それを基礎統計の調査設計案に反映させ、基礎統計の試験調査等による記入精度の検証結果等を踏まえて詳細な構成を決定する手順で行うことが適当

・方針「②」に基づき、SUT・産業連関表の部門（品目・産業）数等は、基礎統計の限界を踏まえて設定することが適当

基準年SUT・産業連関表の基本構成の決定についての意見

《生産構造の正確な把握》

○経済センサスー活動調査では、主業の生産活動は産業細分類別に把握している一方、副業の生産活動は、報告者負担の抑制や記入精度を確保するため、全産業分野の状況を産業大分類ベースで把握

○一部のサービス分野において、副業の生産活動を産業細分類（約200分類）別に把握しているものの、記入負担（「分類表」の多くの分類区分の内容例示を見て回答する必要）や記入困難性（自社の事業がどの分類区分に該当するか分からない）の問題から、多くの記入漏れが発生。このため、調査員や市町村の疑義照会による補記訂正を含め、調査票の審査に多くの行政コスト（人的リソース等）を投入して結果精度を確保



○平成33年経済センサスー活動調査において主業・副業の生産構造を正確に把握するためには、その前提となる生産物の分類区分数等の基本構成について、報告者負担の抑制や行政コストの制約の下で結果精度を確保できるものにする必要があり、試験調査等による記入精度の検証結果を十分踏まえて決定する必要

《投入構造の正確な把握》

- 経済センサス-活動調査では、報告者負担の抑制と記入精度の確保を図るため、投入構造の把握に必要な費用項目は、主に付加価値額の算出に必要な基本的な費用項目に限定して把握
- 産業連関表作成府省が産業別に投入調査（一般統計調査）を実施し、生産活動ベースの詳細な費用内訳を把握しているが、回答確保に制約



- 投入構造を詳細に把握するため、今後、投入調査のサンプルサイズの拡大等を図り、平成38年経済センサス-活動調査の一環として実施することとしているが、調査する費用項目（項目数・内容）については、報告者負担の抑制や行政コストの制約の下で結果精度を確保できるものにする必要があり、試験調査等による記入精度の検証結果を十分踏まえて決定する必要

正確なSUTの作成には基礎統計の正確性を確保することが大前提

- 1) 報告者に大きな負担をかけることなく、かつ、報告者が正確に回答できる調査設計（分類区分数や調査項目数）が不可欠
- 2) 調査員や地方公共団体を含め、限られた行政コスト（人的リソース等）の中で、正確な調査と調査票審査を行うことが不可欠